

Information

新しくロゴマークができました。

福武教育文化振興財団のロゴマークができました。

マークは「F」をモチーフに、人と人との結びつき、支え合いを表し、教育や文化を通して地域づくりに情熱を燃やす人々を支援していく財団の活動を表現しています。

「F」はFUKUTAKEの「F」、FOUNDATIONの「F」であり、同時にFree, Fair, Family, Friendなどの「F」でもあります。

またマークの色は「空の色・スカイブルー」です。空は世界に広がり、その空の下で繰り広げられる人間の活動を寛大に、平等に見守っていると考えるからです。

デザインは岡山のグラフィックデザイナー・田中雄一郎氏。

財団では助成活動や各種の広報などに活用し、より県民の皆様身近な財団であることをアピールしたいと考えています。

<< Logo mark >>



FUKUTAKE
EDUCATION AND CULTURE
FOUNDATION

財団の基本理念「人づくり・地域づくり」をテーマに「福武教育文化叢書」シリーズの刊行をはじめます。この叢書シリーズは、当財団の受賞者・助成対象者を著書とし、「本」を通して岡山県の教育・文化活動を支援するものです。

第1弾は、平成19年度文化活動助成対象者「犬島再発見の会」の在本桂子氏著「犬島ものがたり～アートの島の昨日・今日・明日」。犬島に生まれ、この島をこよなく愛する著者が、島の昨日・今日そして未来へと案内する一冊です。



- 著者 在本桂子
- 仕様 A5判 並製本
- 発行 吉備人出版
- ページ数 184ページ
- 協力 福武教育文化振興財団
- 定価 1470円

助成活動の募集について

助成先の活動状況

教育研究助成

募集期間を延長しました。
1月31日(木)必着まで受付いたします。

文化活動助成

募集期間は2月15日(金)～4月30日(水)です。今年から応募期間を変更しておりますのでご注意ください。

◆鏡野町文化協会郷土芸能勉強会

開催日 平成20年2月3日(日) 開演9:00～11:00
会場 鏡野町中央公民館大ホール
主催 鶴喜子供銭太鼓

◆吉備の国から一期一会 備中温羅太鼓

開催日 平成20年2月17日(日) 15:00開演
会場 岡山県総社市民会館
主催 備中温羅太鼓



◆倉敷市立短大子どもの劇場公演2008

開催日 平成20年3月1日(土) 午前 10:30開演 午後 14:30開演
3月2日(日) 午前 10:30開演 午後 14:30開演
会場 倉敷市芸文館アイシアター
主催 倉敷市立短大子どもの劇場

◆ルネスをあそぶ インプロ・シアター in ルネス

開催日 平成20年3月22日(土) 19:00開演
会場 ルネスホール
主催 インプロ×OKAYAMA

◆オーボエ ヴァイオリン

開催日 平成20年3月29日(土) 19:00開演
会場 岡山市立オリエント美術館
主催 OACMS(オークムス)

◆「箏&キーボード『奏-かなで-』Spring Concert」

開催日 平成20年3月30日(日) 14:00開演
会場 足守プラザ 米蔵ギャラリー
主催 奏-かなで-

■公開している教育機関

- ◆個性的教育を推進する地区・校助成(開催校、開催日)
 - ・倉敷市立福田南中学校 平成20年2月9日(土)



F U E K I 不易
vol.29

[特集]

オーストラリア職業教育に

学

～自ら求め、自ら決める～
～ガッツで挑む留学生たち～

ぶ



今回は岡山県の中央部に位置する、久米郡美咲町立美咲中央小学校を訪問した。

美咲町は2005年3月22日、いわゆる平成の大合併によって、久米郡内の三町(中央町、柵原町、旭町)が対等合併して誕生した町で、美咲中央小学校は合併の翌年の4月に「大坪和小学校」「打穴小学校」「厚生小学校」の三校が統合してスタート。新しい校舎を吉備高原の北部、標高689mの二上山を源流とする打穴川の流域に建設し、新たな歴史を刻んでいた。

正面玄関を入ると先ず廊下が広く、長いことに驚かされる。幅はゆうに5メートルはある。オープンスタイルの図書室には、たくさんの新しい本が読みやすく配列され、読書好きの子どもたちが増えそう。全校児童161名と教職員21名が一同に給食を食べることができるランチルーム。その隣にある「ホテルのようなプール」がガラス越しに見え、まるで地中海風のレストランにいるようだ。校舎一体型の体育館や床暖房が完備した教室、廊下などはすべてバリアフリー構造になっている。建物の造りは斬新かつユニークで、しかも地元産のヒノキを使った廊下や机、椅子は温かさを感じさせ、子どもたちがのびのびと過ごせる学びの空間を作り出していた。

しかしユニークなのは建物の造りだけではない。学校教育の中にその本質があった。安藤眞二校長の説明によると大きく二つのポイントがあった。

家庭や地域社会と連携を深め、

開かれた学校づくりを推進

一つは「確かな学力の育成と向上」に努めることを目指して、2007年8月には東大大学院教育研究科の市川伸一教授の講演会を開催。また市川教授が推奨する「学びのポイントラリー」を11月から実践するなど人間力の育成と地域教育への参加を促進していること。

もう一つは「家庭や地域社会と連携を深め、開かれた学校づくりを推進」していることであった。安藤校長は「福武教育文化振興財団の“学力・人間力推進事業”の助成を受けたことで大きく前進することが出来た。これからも可能な限り地域の人材を導入して、教育力を活用できる学習を計画したり、学校ボランティアの推進と活用を努めたい。また保育園、小学校、中学校の連携教育も推進していきたい。」と抱負を述べておられた。

訪問した2007年12月14日は「平成19年度第2回公開研究授業」の開催日にあっていた。熱のこもった公開授業のあと、埼玉県草加市立八幡小学校の鍋木良夫校長の示範授業も行われ「教えて考えさせる授業」の実践に徹した学校という感想を持った。

学区内には、護国法で有名な岡山寺、獅子舞の境神社、鬼山城跡、美作霊場54番札所の興禅寺など名所、旧跡も多く、大坪和地区の棚田は日本の“棚田百選”に選ばれるなど自然景観に恵まれている。豊かな自然の中に育まれた美咲町の子どもたちが世界に羽ばたくほど大きく成長して、美咲の里をさらに活性化して欲しい念じつつ初冬のたたずまいに包まれた学校を後にした。(財団・赤松康弘)



■教育が第4の輸出産業

オーストラリアの教育制度が進んでいる理由に、国家の生い立ちがあげられています。オーストラリアは1770年、イギリス人のジェームズ・クック船長が現在のシドニー郊外にあるボタニー湾を発見して上陸、領有を宣言して以来イギリス人の入植が始まり、1828年、原住民のアボリジニー民族などを放逐してイギリスの植民地となりました。その後1901年独立し、イギリス女王を国家元首とする立憲君主制・連邦制を執る国家を設立します。

独立後はヨーロッパからの移民を受け入れ白豪主義を掲げていましたが、第二次世界大戦以降は白人移民が減少を続けたことから、1980年代に入って全世界からの移民を受け入れ、現在他民族国家となっています。国家としての歴史が浅かったことが、国力を挙げる近道としての教育を発展させ、第4の輸出産業にまで押し上げたと言われています。

■少ない日本人留学生

オーストラリア最大の都市シドニーは、ニュー・サウス・ウェールズ州(NSW)にあり、近代化が進んだ大都会の風貌と風光明媚な大自然の姿が調和する美しい町です。南半球は今夏を迎え、最高気温は平均で27度前後、湿度は低く木陰に入ると風が心地よく感じられます。

5万人が学ぶ「ノーザン・シドニー・インスティテュート(NSI)」には約1万8000人の留学生がいますが、このうち日本人留学生は51人。韓国、中国からの留学生が圧倒的に多く、日本からの留学生は少数のグループに属しています。しかし彼らは他民族が集う教室の中

で、英語力を身につけた専門家を目指して、TAFEからの大学進学を目指して、懸命に勉強していました。

NSIの7つのキャンパスのうち本部のある「クローズネスト・カレッジの語学課程・6ヶ月コース」で学ぶ5人の留学生は、1ヵ月から3ヵ月と留学して間もない学生たちでした。このうち

愛媛出身の鈴木宗人さん(25)は、大学卒業後進路に迷い、英語を使う職業を求めて7月から留学。家族からの仕送りが十分でないためアルバイトをしています。

ガッツで挑む留学生たち

英語力と専門知識があれば世界へ

時給は15ドルから20ドルと日本より高く、週21時間まで働けます。しかし最近物価が上がり生活は厳しくなっているそうです。

大阪出身の村木睦子さん(19)は2006年春、高校を卒業後働いて貯金し、9月に念願の留学を果たしました。6ヵ月コースの中で英語をマスターしてTAFEに入学し、大学への道を目指したいと目を輝かせていました。

■夢は“世界を舞台に”

英語力と専門知識を身につけて帰国したいとする留学生に対して、英語力と専門知識があれば、世界を舞台に働けると夢を広げる学生もいます。

東京出身で、現在NSIの「ライド・カレッジ ホスピタリティーコース」で学ぶ浅野温子さん(19)は私立中学を卒業した14歳のときシドニーに渡りました。付属の高校を出て、エスカレーター式に大学へ進むより、自分らしく生きたいというのが動機でした。母親の理解を得て、ホームステイ先を探し既に5年。アジア人の家庭で家族の一員として迎えられています。

オーストラリアの義務教育は中等教育の前期・15歳まで。浅野さんは1年間で義務教育を終えたあと、日本の高校に当たる中等教育の後期2年間で高等教育への準備教育を受けてTAFEへ入学しました。ホスピタリティーコースを選んだのは、高級ホテルのマネージャーに憧れたからでした。TAFEに入学して2年、上級のディプロマ(準学士)に進み、NSIの優秀な学生に贈られる「EXCELLENCE AWARD 2007」にも日本人留学生として初めて選ばれました。浅野さんはさらに1階級上のアドバンス・ディプロマの資格を取って大学の2年生に編入し、学問としての「ホテル学」を学んで世界の五つ星ホテルのマネージャーとして活躍したいと希望を語っていました。

留学生のすべてが希望通りになっているわけではありません。途中挫折して帰国した留学生もいます。自分の可能性を見つけて、血の滲むような努力で突っ走っている留学生たちの若さとガッツこそが夢を現実に行っているのです。(財団・下山宏昭)

Cover Photograph



写真 人見文雄

三味線餅つき一頭蜜寺五大力餅会陽(美作市)

美作市の醍醐山・頭蜜寺では、毎年旧正月の行事としても有名な「五大力餅会陽」が行われている。185キロにも及ぶ大鏡餅を抱える大力を奉納して、不動明王を始めとする五大明王の霊験を授かるというもの。餅会陽に使われる10俵(約600キロ)の餅は本番の2日前に、3人の檀家が奏でる津軽三味線のリズムカルな伴奏でつきあげられていく。寺伝では承久3年(1221)後鳥羽上皇が隠岐へ流される途中立ち寄りられ、近郷の人々が傷心の上皇を慰めようと餅をついて献上したのが始まりと伝えている。餅会陽は正月の修正会結願の日に行われる法会のひとつ。京都の総本山醍醐寺や、さぬき市の長尾寺でも行われており、同様の柴灯護摩供も修められる。岡山県下の会陽のトップを切って行われる頭蜜寺の餅会陽は2月1日に三味線餅つき、3日が本番。ことしも大勢の力持ちで賑わいそう。

Editor's comments

62カ国・地域が参加して技能の世界一を競う大会が、昨年22年ぶりに日本で開かれ、金メダルの数では16個を獲得して1位でしたが、総合では韓国が27個のメダルを取って優勝、日本は2位でした。この結果は“ものづくり大国”を自認していた日本の技術力が、一部では世界一の実力を保っているものの、全体のレベルでは凋落傾向にあることを示唆していると考えられます。

かつて独自の人材育成で成果を上げていた大企業が、合理化と工場の海外移転などによって、技能の蓄積に余裕がなくなり、それが原因で全体のレベルを押し下げているという指摘があります。逆に言えばレベルの高い技術者の育成を、国が企業に丸投げしていた結果でもあると言えます。こうした日本の職業教育のあり方に疑問を持って、今号はオーストラリアの職業教育専門学校(TAFE)の視察結果をもとに、特集を拡大して組みました。

オーストラリアでは、国や州が人づくりの目的をもって、厚遇で質の高い教育担当者を確保し、少人数制で教育効果を挙げているのです。少なくとも基本的な分析もなく、学力が落ちたから授業数を増やすという安易な考え方を持つ教育関係者と出会うことはありませんでした。突出した技術も必要ですが、グローバル化された国際社会の中では、国際人としての素養と技能レベルの向上を国全体で向上させる重要性をTAFEは提示していると感じました。(S)

季刊 不易

F U E K I vol.29 2008.1.25

財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市南方3-7-17
TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190
http://www.fukutake.or.jp/

制作 株式会社 吉備人

デザイン 田中雄一郎(QUA DESIGN style)

■若者に人気の高いキャンパスを視察

福武教育文化振興財団が主催してオーストラリアの「TAFE(総合職業教育専門学校)制度」を学ぶ視察団(団長 高旗正人中国学園大学子ども学部長)の一行26人が、2007年10月20日から1週間にわたってシドニーにあるノーザン・シドニー・インスティテュート(NSI)を視察しました。

視察団が訪ねたNSIは、オーストラリア南東部のニュー・サウス・ウェールズ州にあり、7つのキャンパスを持ち5万人が学ぶオーストラリア最大級の州立の職業教育専門学校です。このうち映画・テレビ技術や情報技術などデジタルメディア系のコースを持つ「ノース・シドニー・カレッジ」をはじめ、通訳やホテル経営などのビジネス系、建築技術や美術などのアート系、観光、ホスピタリティー、美容セラピーのコースなど日本の若者にも人気の高い職業コースの授業を見て回ったほか小学校、中高一貫校、大学も視察し、オーストラリア教育の全体像を学びました。

■互換性を持つTAFEと大学

オーストラリアは日本の20倍という広大な国土で、人口は約2,000万人。1億3,000万人近い日本と教育システムを単純に比較することは難しいと思われまます。しかし人材育成のあり方については大いに参考にすることはできると思います。

例えばオーストラリアの高等教育は、職のプロになるための専門知識や技術を習得する職業教育専門学校(TAFE)230校と、深い学問を学ぶための大学45校とに大きく分かれています。大学を卒業してTAFEで実力を養ったり、逆にTAFEを卒業して大学に進む道も設けられ、取得単位には互換性があるのが特徴です。教育機関は学生の目的に沿ってサポートし、学生たちは自分の将来については「自分で求め、自分自身で決める」ことを原則としています。

職業教育専門学校・NSIの場合、留学生を対象にしたコースだけでも100以上の職種の選択ができ、しかも途中で職種のコースを変更することは自由。既に取得した科目は次のコースで生かすことが出来るという無駄のないシステムが組み立てられています。希望する職種を決めかねていても、どこかのコースで学びながら自分にあった職業を自分の意志で無駄なく探すことができる仕組みになっているのです。

オーストラリア職業教育に学ぶ

自ら求め、自ら決める



また教育には常勤の教師と授業だけを担当する講師があたり、講師の多くは職場から教室に直行するベテランが採用されています。最も新しい情報が教室に持ち込まれ、実習もその講師の職場で行われています。学校と職場との壁がなく、即戦力としての実力が養われているわけです。

■留学生のサポート機関が誕生

授業はすべて英語。ある程度の英語力がなければ授業にはついていけません。このためNSIでは英語圏以外の留学生のために「英語養成課程」を設けていますが、ベネッセ・コーポレーションの福武総一郎会長兼CEOが、2007年に日本からの留学生を対象とするグローバル・キャリア・アカデミー(GCA)をオーストラリアに設立。オーストラリアは国家的事業と位置づけ、2007年12月12日にはNSIのケビン・ハリス学長と福武会長が東京の在オーストラリア大使館で業務提携の調印式を行ない、2008年4月入学からの留学生募集を開始しました。

GCAはNSIのキャンパスの中に本部を置き、日本人スタッフを常駐させて留学生をサポートする機関で、福武会長は「世界は益々グローバル化され、専門的な能力と英語力を身につけた若者たちの職場は広がる。若者たちが目標をもって世界のフィールドで活躍できる時代を創出したい」と話しています。

今回の視察に参加した教育関係者を通して、自分に適した職業を探しあぐね彷徨っている日本の若者たちに、新しい職業観を提示するきっかけができることを願っています。